

新潟市西区在住の酒匂宏樹です。柏崎刈羽原子力発電所の再稼働の是非を問う県民投票の運動が行われていましたが、請求代表者として参加させてもらいました。新潟大学に勤めておりました、若者たちと運動に参加することができました。

原子力発電所に関わる活動に携わるのは今回初めてでしたが、署名収集者の募集、署名収集、知事との面会、臨時県議会での意見陳述など、多くの経験をすることができました。県民投票で決める会の運動が可能になったのは、長年、原子力発電所に関わる問題提起を続けてきた方々のおかげです。今回のように世間の関心が高まっているときだけでなく、世間の関心が薄らいでいた時期も運動を続けていた方々に、この場を借りまして、厚く御礼を申し上げます。

私に請求代表者になることを提案してくれたのは先輩の同僚でした。学生を含む新潟大学メンバーも誘っていました。ミーティングを数回開きました。直接請求制度の理解を深めると同時に、この運動がどのような運動であるのか、どのような運動であるべきか、についての認識共有に注力しました。原発の再稼働については否定的な方々が多いというのは承知の上で、あえて、住民自治の危機として現状認識を共有することに注力しました。その方が署名を集めやすくなるだろうとも考えました。

署名収集期間が始まりました。署名収集学内イベントの企画、署名収集活動のためのポスター制作などでは、私は余り関与せず、同僚と学生、卒業したばかりの卒業生が進めてくれました。大きな教室の外で机を並べて署名収集をしたことがありました。声が届けば、学生たちはとても素直に応じてくれました。声の届く範囲の狭さに

は歯がゆさを覚えました。一度耳を傾けてくれた場合は、私たちの運動の正当性について、居丈高に主張する必要性は全くありませんでした。多くの若者たちは「社会が民主的に運営されるべきである」と素朴に信じているようでした。

県議会による否決をうけて、ショックを受けた卒業生がいるということを同僚の署名収集受任者から伝え聞きました。私たちの社会が非民主的な社会であるという現実を思い知った若者も少なからずいるようです。今回の運動は社会の現実を知るための教材を提供したという意味で成功でした。次に大切になるのは、社会を知った上で、社会をどう変えるかだと思います。

活動を継続するためには世代間の継承が必須です。若い世代を巻き込むことはやった方がいいことではなく、必要なことです。そのためのポイントは三つあると思います。一つ目は、若者に居場所を提供すること。二つ目は、若者にちゃんと伝えること。三つ目は、若者が年長者の思い通りにはならないと心得ておくこと、です。気長な姿勢が必要です。

最近の大学生に政治の話をすると、割と良い反応が返ってきます。政治に関心を持っている新大生が増加しているようにも感じられます。冷笑的態度と出くわす頻度が減っているように感じられます。10 年前の学生たちと比べると、国の政策について、疑いの目を向ける姿勢が身についているようにも思われます。お近くに若者がいる場合には無理のない範囲で、話題を提供してみてください。

以上で私からの報告とご提案とさせていただきます。ありがとうございました。